

IBM i World 2023

IBM i コンテンツ (2023年2月版)

IBM i でJavaを使ってみよう!

- IBM i 用 JDKとWebSphere Server-Express/Baseライセンスは無償
です -

日本アイ・ビー・エム株式会社
テクノロジー事業本部
IBM Powerテクニカルセールス
澤田英寿

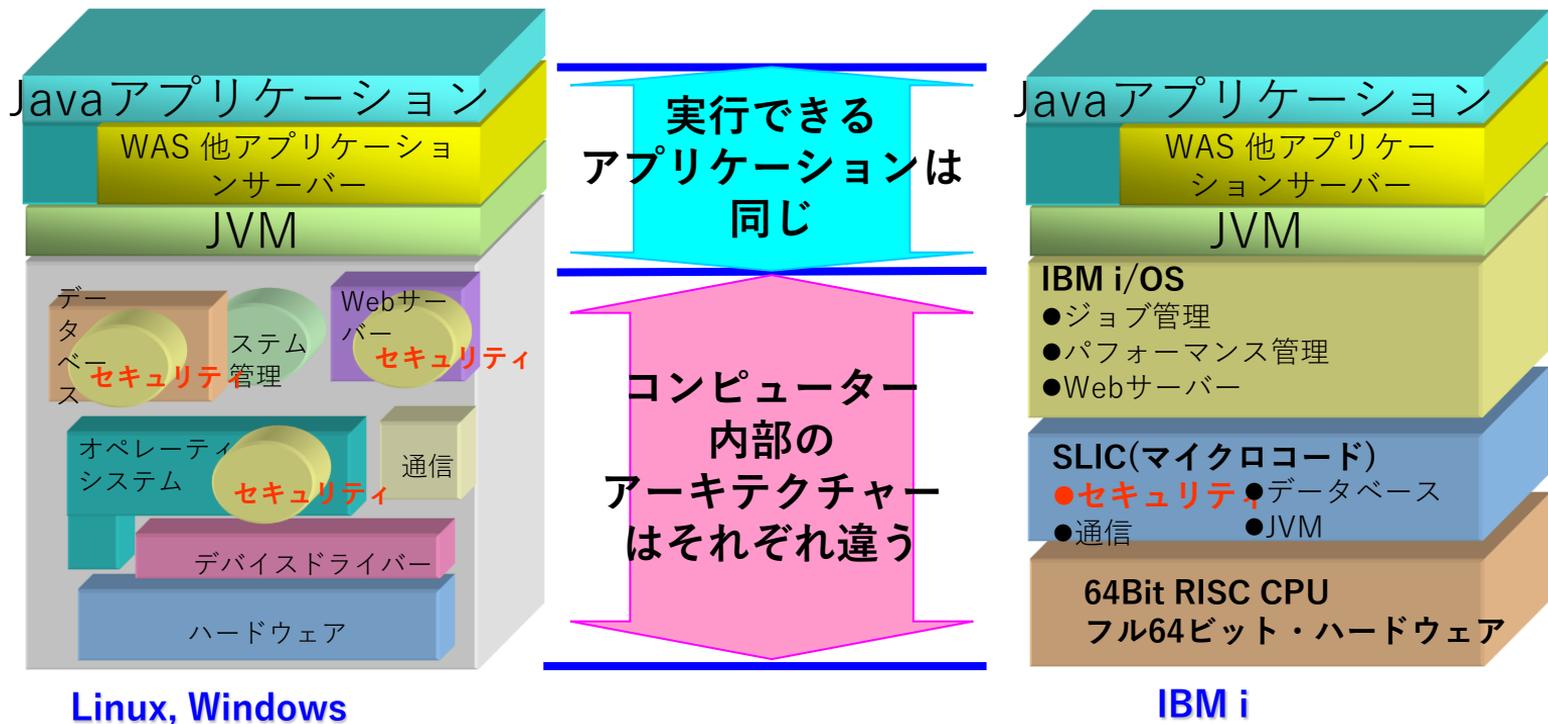
目次

1. IBM iのJavaについて
2. 簡単なJavaプログラムを作ってみよう。
3. IBM Toolbox for javaを使ってみよう。
4. JavaリリーススケジュールとWebSphereについて
5. 補足情報

1. IBM iのJavaについて

(1) IBM iセキュリティ上のメリット

- ✓ IBM iのJVM、アプリケーションサーバー（WebSphere, TOMCATなど）の動作に、他のサーバーとの差異はありません。
- ✓ Linux、Windowsサーバーとの差異は、セキュリティ機能が、OSレベル以下の実装であり、これらはJavaアプリケーションから隠ぺいされています。このOS以下の実装がLinux、Windowsと異なることでより安全で、信頼性の高いシステム環境を提供します。



(2) IBM iのJavaライセンス・サポートのメリット

- ✓ IBM iのJavaサポートは、IBM i製品の一部（5770-JV1）のPTFを介してサポートされ、IBM iソフトウェア・サポート契約の一部としてカバーされます。
- ✓ IBM iのバージョン・リリース毎にサポートされるJava製品については下記を参照してください。 <https://www.ibm.com/support/pages/node/1117869>

例えば、IBM i 7.5では下記のJavaがサポートされます。

IBM i 7.5, Product: 5770JV1, PTF Group: SF99955		
Options	JDK	JAVA_HOME
16	IBM Technology for Java 8.0 32bit	/QOpenSys/QIBM/ProdData/JavaVM/jdk80/32bit
17	IBM Technology for Java 8.0 64bit	/QOpenSys/QIBM/ProdData/JavaVM/jdk80/64bit
19	IBM Technology for Java 11 64bit IBM Semeru Runtime Certified Edition	/QOpenSys/QIBM/ProdData/JavaVM/jdk11/64bit

(3) IBM i - WebSphereライセンスとサポートが含まれています

- ✓ 最新版の5733-WE3 (IBM Web Enablement for i) は、WebSphere Application Server-Express版 (v8.5)、Base版 (v9.0) を提供します。
- ✓ 5733-WE3は無償です。
IBM i OS本体のSWMAに加入していれば、WebSphere Application Server-Express版 (v8.5) とBase版 (v9.0) のサポートも得られます。
- ✓ 最新版のダウンロード手順は下記を参照してください。
<https://www.ibm.com/support/pages/how-download-ibm-web-enablement-package-ibm-i-os>

IBM Web Enablement for IBM i パッケージ内の製品をダウンロードするには、IBM ライセンス付きシステム・サポート (ESS) URL の IBM お客様番号に関連付けられた有効な IBM ユーザー ID とパスワードが必要です。

<http://www.ibm.com/servers/eserver/ess/index.wss>

2. 簡単なJavaプログラムを作ってみよう

(1) IBM i Javaのインストール

- IBM Developer kit for Javaをインストールすると、IBM iシステム上で、Javaプログラムを作成、実行することができます。
- 英子文字が必要なので、CCSIDが5026の場合は、一時的に5035にしてください。
- このライセンスは、5770-JV1に含まれています。GO LICPGMで10（表示）で、下記のように導入Sされていることを確認してください。（下記の図はIBM i 7.5での表示例）
- 可能であれば最新のJava PTFグループを適用してください。

導入済みライセンス・プログラムの表示			システム :	IBM175
ライセンス・プログラム	プロダクト・オプション	記述		
5770JV1	*BASE	IBM DEVELOPER KIT FOR JAVA		
5770JV1	16	JAVA SE 8 32 BIT		
5770JV1	17	JAVA SE 8 64 BIT		
5770JV1	19	JAVA SE 11 64 BIT		
5770JV1	20	JAVA SE 17 64 ビット		

- IBM iでは、複数のJavaバージョンをサポートしている。下記コマンドで環境を切り替えることが可能です

```
ADDENVVAR ENVVAR(JAVA_HOME) VALUE('/QOpenSys/QIBM/ProdData/JavaVM/jdk80/64bit')
ADDENVVAR ENVVAR(JAVA_HOME) VALUE('/QOpenSys/QIBM/ProdData/JavaVM/jdk80/32bit')
ADDENVVAR ENVVAR(JAVA_HOME) VALUE('/QOpenSys/QIBM/ProdData/JavaVM/jdk11/64bit')
```

(2) IBM iのJava環境の稼働確認

- ・ Java稼働の環境を確認してみましょう。
- ・ ここでは、JDK11を使ってみましょう。
- ✓ 前頁のJava環境変数を入力します。

```
> ADDENVVAR ENVVAR (JAVA_HOME) VALUE (' /Q0openSys/QIBM/ProdData/JavaVM/jdk11/64bit')
環境変数が追加された。
```

- ✓ QSHELLの画面にします。

```
> call qp2term
```

- ✓ Javaのバージョンを確認します。「Java -version」を実行
- ✓ 下記のように、v11のOpenJ9が利用できることが確認できます。

```
> java -version
java version "11.0.14.1" 2022-02-08
IBM Semeru Runtime Certified Edition 11.0.14.1-IBM (build 11.0.14.1+1)
Eclipse OpenJ9 VM 11.0.14.1-IBM (build openj9-0.30.1, JRE 11 OS/400 ppc64-64-
BIE Compressed References 20220303_000000 (JIT enabled, AOT enabled)
OpenJ9      - 9dccbe0
OMR        - 56c3376
JCL        - f0981da based on jdk-11.0.14.1+1
$
```

(3) 簡単なJavaプログラムを使ってみよう (1/5)

ここからは実際にJavaプログラムを使ってみます。

- ✓ Hello World を表示するJavaプログラムを作成します。
- ✓ Javaのアプリケーションは、IFS（統合ファイルシステム）に配置します。
IBM i上に自分専用のディレクトリーを作成してください。5250画面で下記のように入力します。
IFS（統合ファイルシステム）に下記のフォルダーが作成されます。
(例) CRTDIR DIR('/home/SAWADA')

- ✓ PC上のエディター（メモ帳でもOKです）で下記を入力します。

```
class HelloWorld {  
    public static void main (String args[]) {  
        System.out.println("Hello World 2023 Java");  
    }  
}
```

- ✓ テキスト名をHelloWorld.javaにして保存する。エンコード方式はUTF-8にします。

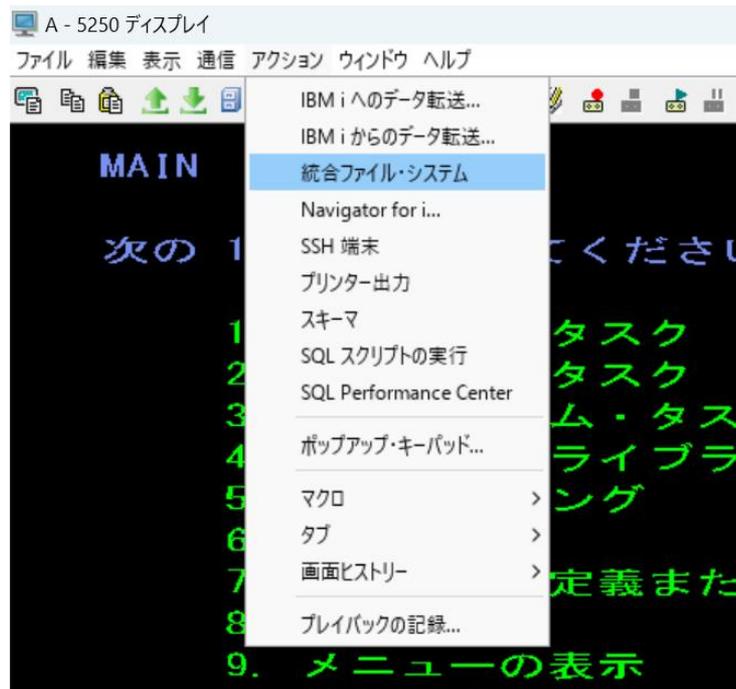
ファイル名(N):	HelloWorld.java	▼		
ファイルの種類(T):	すべてのファイル (*.*)	▼		
フォルダーの非表示	エンコード: UTF-8	▼	保存(S)	キャンセル

(3) 簡単なJavaプログラムを使ってみよう (2/5)

作成したPCファイルをIFS上に転送します。

①ACSの「統合ファイル・システム」を選択します。

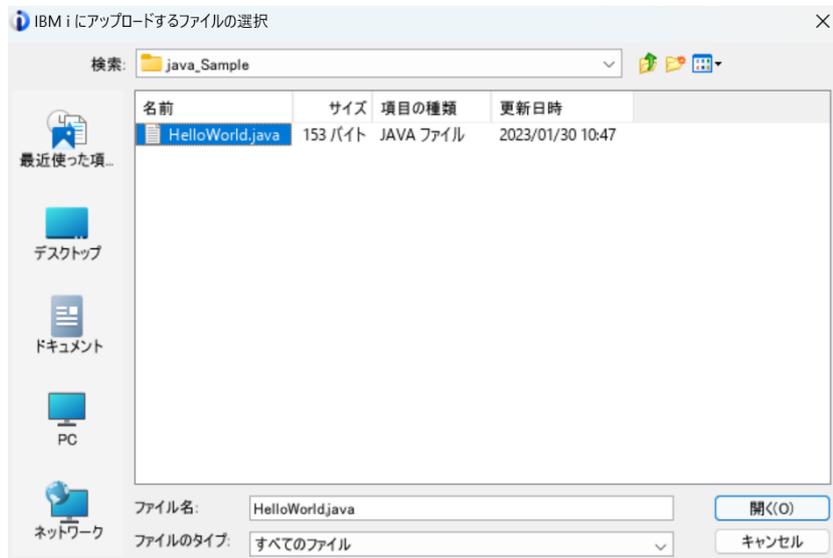
②ディレクトリーが先ほど作成した (例 /home/SAWADA) であることを確認して、「アップロード」を選択します



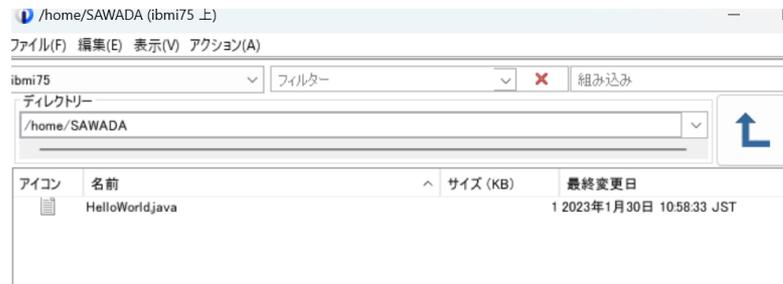
(3) 簡単なJavaプログラムを使ってみよう (3/5)

作成したPCファイルをIFS上に転送します。

③先ほど作成したHelloWorld.javaを選択します。



④「開く」→OKを選択すると下記のようにアップロードされる



(3) 簡単なJavaプログラムを使ってみよう (4/5)

ソースファイルをコンパイルします。

Java環境設定した5250画面で、QSHELL画面にします。(call qp2term コマンド)、

- ✓ 現行ディレクトリーを/home/SAWADAにします。

```
$ cd /home/SAWADA
```

- ✓ 現行ディレクトリーにHelloWorld.javaが入っていることを確認します。(lsコマンド)

```
> ls  
HelloWorld.java  
$
```

- ✓ QSHELLコマンドで、下記のようにしてコンパイルします。(Javacコマンド)

```
> javac HelloWorld.java  
$
```

- ✓ classファイルができていることを確認します。

```
> ls  
HelloWorld.class    HelloWorld.java  
$
```

(3) 簡単なJavaプログラムを使ってみよう (5/5)

プログラムを実行します。

- ✓ QSHELL画面から「Java HelloWorld」と入力すると、下記のように表示されます。

```
> java HelloWorld
Hello World 2023 Java
$
```

- ✓ 又は、5250画面（QSHELLではなく通常のコマンド画面）から、下記のように入力します。

```
RUNJVA CLASS(HelloWorld)
```

下記のように表示されればOKです。

```
                JAVA シェル画面

Hello World 2023 Java
JAVA プログラムが完了しました
```

F3（終了）でコマンド入力画面に戻ります。

もしRUNJVAで起動しない場合は、下記のようなコマンドでCLASSPATH環境を設定してください。

```
> ADDENVVAR ENVVAR(CLASSPATH) VALUE('/home/SAWADA')
環境変数が追加された。
```

3. IBM Toolbox for Javaを使ってみよう

(1) IBM Toolbox for Javaとは

- IBM Toolbox for Javaは、Javaプログラムを使用して、システム上のデータにアクセスするためのJavaクラスのセットです。IBM i上のデータや、資源を処理するための300以上のクラスを含んでいる。
- OSにも標準で入っているが、最新版は、JTOpenと呼ばれるコミュニティで提供されている。
- 下記のような様々な機能を含んでいる。 <https://jt400.sourceforge.net/>

- Database -- JDBC (SQL) and record-level access (DDM)
- Integrated File System
- Program calls (RPG, COBOL, service programs, etc)
- Commands
- Data queues
- Data areas
- Print/spool resources
- Product and PTF information
- Jobs and job logs
- Messages, message queues, message files
- Users and groups
- User spaces
- System values
- System status

3. IBM Toolbox for Javaを使ってみよう

(2) IBM Toolbox for Javaの導入

- 最新版は、下記のURLにある、PTFをIBM iに適用すると導入されます。

<https://sourceforge.net/projects/jt400/>

下記のPTFを適用することで最新版に更新できます。(‘2023/02/03現在)

5770SS1 V7R5M0用 → SI81619

5770SS1 V7R4M0用 → SI81620

5770SS1 V7R3M0用 → SI81624

- PTFを適用すると、下記のIBM i上（下記フォルダー）に、jt400.jarの最新版が作成されます。
/qibm/ProdData/OS400/jt400/lib/jt400.jar
- Javaプログラムを実行前に、下記のような環境変数の追加が必要です。

```
ADDENVVAR ENVVAR (CLASSPATH) VALUE (' /qibm/ProdData/OS400/jt400/lib/jt400. j  
ar')
```

環境変数が追加された。

3. IBM Toolbox for Javaを使ってみよう

(3) IBM Toolbox for Javaを使ってみよう (1/3)

- ここではToolbox for JavaのJDBCドライバーを使用した、データベースをアクセスする簡単なプログラムを作成します。

- Javaのソース編集を、メモ帳を使用して、PCのソースファイルを編集します。他の使い慣れたエディターでもOKです。
- 作成したファイルはUTF-8のエンコード方式で、/Home/xxxxx にACSを使ってアップロードします。

PC (Windows)

メモ帳や、Eclipseや
VS Codeなどの
エディターで開発

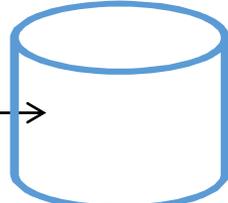
IBM i 環境

/home/xxxx

JAVAプログラム
(sqlselect)

実行

Db2 for i



ライブラリー：QEOL
TOKMSP(得意先マスター)

01010	阿井旅館
01020	阿井工業
01030	相川工業
01040	阿井旅行社
01050	阿井食品K. K
01060	相川自動車
01070	相川カメラ
01080	相川広告K. K
01090	相川電機K. K
01100	相川楽器店
01110	相川設計事務所
01120	相川商事
01130	愛工芸社
01140	相川塗装店
01150	相川運輸K. K
01160	相川病院

カラム名	システム名	データタイプ	長さ	ヌル可能	生成値	..	テキスト
TKBANG	TKBANG	CHARACTER	5	いいえ		**	得意先番号
TKNAKN	TKNAKN	CHARACTER	20	いいえ		**	得意先仮名
TKNAKJ	TKNAKJ	CHARACTER	20	いいえ		**	得意先漢字
TKADR1	TKADR1	CHARACTER	20	いいえ		**	住所1
TKADR2	TKADR2	CHARACTER	20	いいえ		**	住所2
TKTIKU	TKTIKU	CHARACTER	2	いいえ		**	地区コード
TKPOST	TKPOST	CHARACTER	6	いいえ		**	郵便番号
TKTELE	TKTELE	CHARACTER	13	いいえ		**	電話番号
TKGURI	TKGURI	DECIMAL	9.0	いいえ	0		当月売上高
TKNURI	TKNURI	DECIMAL	9.0	いいえ	0		当年売上高
TKZURI	TKZURI	DECIMAL	9.0	いいえ	0		前年売上高
TKUZAN	TKUZAN	DECIMAL	9.0	いいえ	0		売掛金残高
TKGEND	TKGEND	DECIMAL	9.0	いいえ	0		信用限度額
TKNYUK	TKNYUK	DECIMAL	6.0	いいえ	0		最終入金日

IBM i

3. IBM Toolbox for Javaを使ってみよう

(3) IBM Toolbox for Javaを使ってみよう (2/3)

- 下記のサンプルプログラムをPC側で作成します。(sqlselect.java)

```
import java.sql.*;
public class sqlselect {
    /**
     * @param args
     */
    public static void main(String[] args) {
        String url = "jdbc:as400://";
        String system = "IBMi75";// IPアドレス
        String lib1 = "QEOL";// スキーマ
        String user = "SAWADA";//ユーザーID
        String password = "SAWADA";//パスワード
        Connection con = null;
        try {
            // JDBCドライバのロード
            Class.forName("com.ibm.as400.access.AS400JDBCDriver");

            // DB接続
            con = DriverManager.getConnection(
                url +
                system + ";" + "libraries=" + lib1,
                user, password);
```

前半

```
        // SQLコンテナの作成
        Statement stmt = con.createStatement();
        // SQLステートメント作成
        String sql = "SELECT TKBANG, TKNAKJ FROM QEOL.TOKMSP";
        // SQL実行
        ResultSet rs = stmt.executeQuery(sql);
        // 検索結果取り出し
        int i = 0;
        while(rs.next()) {
            System.out.println(rs.getString(1) + "\t" + rs.getString(2));
            i++;
        }
        stmt.close();
    } catch(SQLException e) {
        while(e != null) {
            System.out.println("エラー：SQL例外");
            System.err.println(e.getMessage());
            System.out.println("");
            e = e.getNextException();
        }
    } catch(Exception e) {
        System.out.println("エラー：例外");
        e.printStackTrace();
    } finally {
        try {
            con.close();
        } catch(SQLException e) {
            e.printStackTrace();
        }
    }
}
```

後半

- sqlselect.java プログラム解説

```
import java.sql.*;
public class sqlsample {
    /** @param args*/
    public static void main(String[] args) {
        String url = "jdbc:as400://";
        String system = "IBMI75";// IPアドレス
        String libl = "QEOL";// スキーマ
        String user = "SAWADA";//ユーザーID
        String password = "SAWADA";//パスワード
        Connection con = null;
        try {
            // JDBCドライバのロード
            Class.forName("com.ibm.as400.access.AS400JDBCDriver");
            // DB接続
            con = DriverManager.getConnection(url +system + ";" + "libraries=" +
            libl,user,password);
            // SQLコンテナの作成
            Statement stmt = con.createStatement();
            // SQLステートメント作成
            String sql = "SELECT TKBANG, TKNAKJ FROM JDBCLIB.TOKMSP";
            // SQL実行
            ResultSet rs = stmt.executeQuery(sql);
```

簡単にプログラムを解説します。

Toolbox for JavaのJDBCドライバー (jt400.jar)によるIBM iデータベースアクセスのためのモジュールを使うのに必要な設定

executeQuery(sql) でselect文を実行します。

- Sqlselect.java プログラム解説(続き)

```
// 検索結果取り出し
```

```
int i = 0;
while(rs.next()) {
    System.out.println(rs.getString(1) + "¥t" + rs.getString(2));
    i++;
}
```

```
stmt.close(); //ステートメントのCLOSE
```

```
} catch(SQLException e) {
    while(e != null) {
        System.out.println("エラー：SQL例外");
        System.err.println(e.getMessage());
        System.out.println("");
        e = e.getNextException();
    }
}
```

```
} catch(Exception e) {
    System.out.println("エラー：例外");
    e.printStackTrace();
}
```

```
} finally {
    try {
        con.close(); //接続のCLOSE
    } catch(SQLException e) {
        e.printStackTrace();
    }
}
```

```
}
}
```

簡単にプログラムを解説します。
検索結果は、処理対象の行を表すために、カーソルを用います。
Next () メソッドにより1行ずつ処理します。
行データは、getxxx()メソッドで取り出します。getxxx(1)を指定すると1列目のフィールドのデータが取得できます。

エラー時の処理は重要です。
SQL Exceptionは、SQL実行時のエラーの問題判別になります。
Exceptionは、プログラム中に発生するエラーを処理します。

3. IBM Toolbox for Javaを使ってみよう

(3) IBM Toolbox for Javaを使ってみよう (3/3)

- 作成したPCファイルをACSで、IFS (/home/xxxx) へ転送します。(P9-10参照)
- QSHELLでコンパイルします。(Javac sqlselect.java でコンパイル)

```
> javac sqlselect.java
$
```

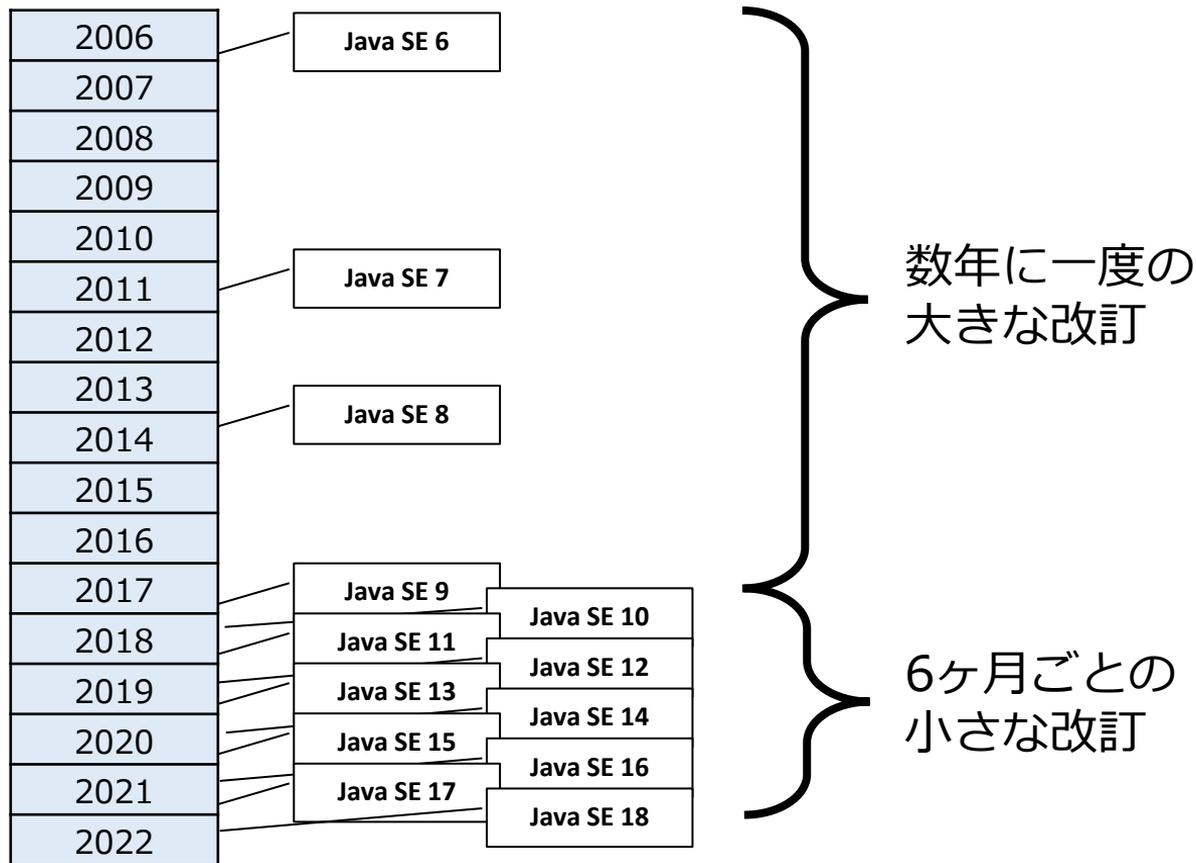
- 実行すると下記のように表示されます。(java sqlselect で実行)

```
> java sqlselect
01010 阿井旅館
01020 阿井工業
01030 相川工業
01040 阿井旅行社
01050 阿井食品K. K
01060 阿井自動車
01070 相川カメラ
```

- 下記のurlには多数のプログラミング例が掲載されています。活用して。
<https://www.ibm.com/docs/ja/i/7.5?topic=tj-code-examples>

4. JavaリリーススケジュールとWebSphereについて

(1) Javaリリーススケジュール 近年では6か月毎に新しいリリースが出荷されています。



(2) JavaのLTS (Long Term Support) 版について

基本的には、Javaは、新しいリリースが出ると、現行のリリースのサポート（バグ修正やセキュリティ対応）が終了します。現実には6か月毎にバージョンアップは難しいので、現在、3年毎に、長期サポート版がリリースされています。

- Java 8：2014年 従来のスケジュールの最後のバージョン (LTS)
- Java 11：2019年 新スケジュールの最初のLTS (以降は3年毎)
- Java 17：2021年 次のLTS (2年毎に変更)
- Java 21：2023年 3番目のLTSになる予定
- Java 25：2025年 4番目のLTSになる予定

それぞれのIBMのサポートについては、下記を参照してください。

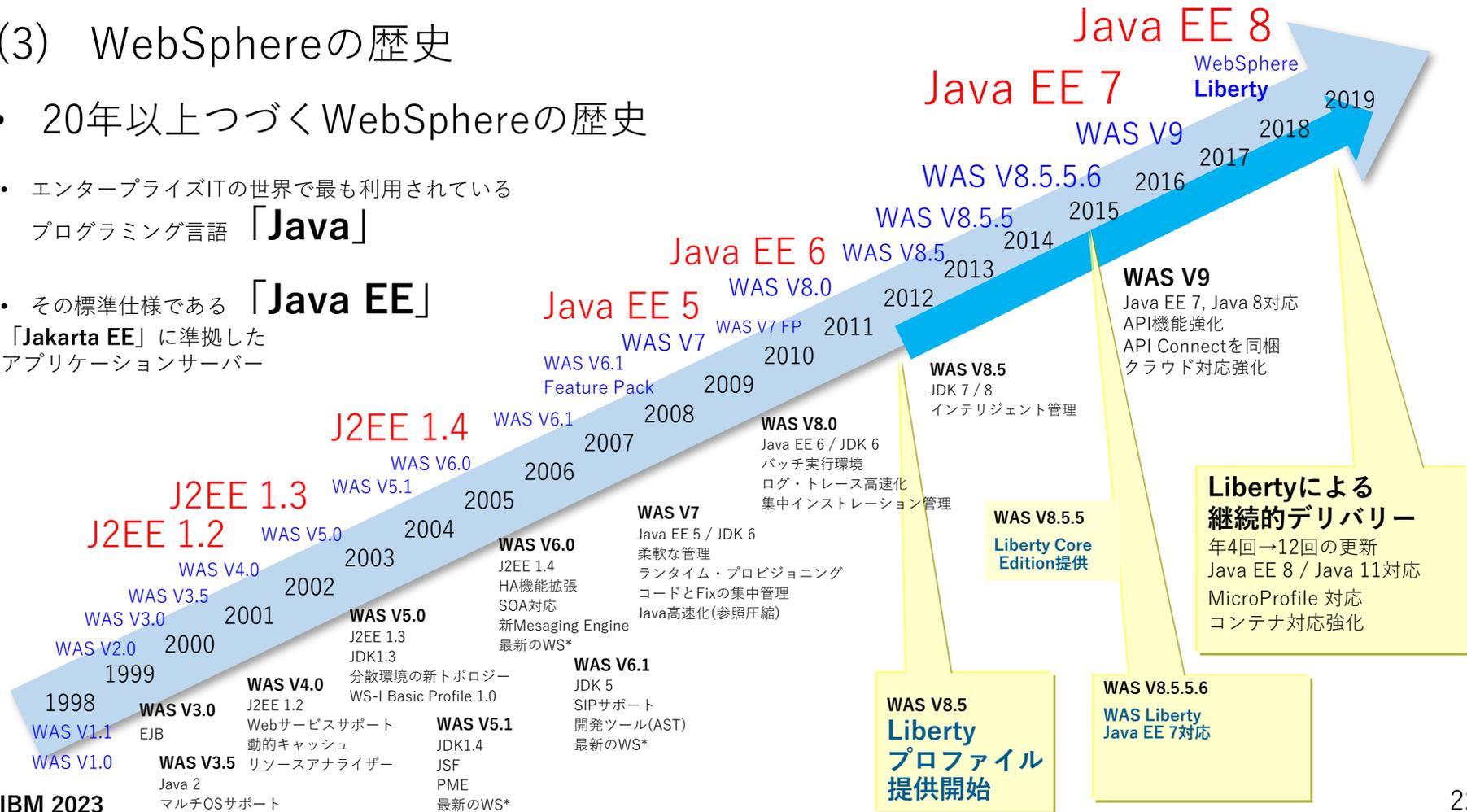
<https://www.ibm.com/support/pages/semeru-runtimes-support#lifecycle>

(3) WebSphereの歴史

- 20年以上つづくWebSphereの歴史

- エンタープライズITの世界で最も利用されているプログラミング言語 **「Java」**

- その標準仕様である **「Java EE」**
「Jakarta EE」に準拠したアプリケーションサーバー



(4) WebSphere Application Server for IBM i 版について

- IBMから提供されているJava EE対応のアプリケーションサーバーであるWebSphere Application ServerにはWebSphere Libertyも含まれています。今後の新規の機能は、Libertyで提供されます。これからWASをご利用いただくお客様には、WebSphere Libertyでの利用をお勧めしています。
- WebSphere Application Server V9.0 for IBM i 導入ガイドは、下記に詳細記述あります。この導入手順書にはWebSphere Libertyも含まれています。
<https://community.ibm.com/community/user/wasdevops/viewdocument/websphere-application-server-v90-f?CommunityKey=d6c93aa2-6e10-48da-96dc-3831da8ee185&tab=librarydocuments>
- WebSphereの情報提供のために、日本のWebSphereユーザー・グループが活動しています。ご活用ください。
<https://ibm.biz/JapanWebSphereUG>

4. 補足情報

(1) IBM iのJavaのマニュアル

<https://www.ibm.com/docs/ja/i/7.5?topic=programming-java>

(2) IBM iのJava製品をサポート

<https://www.ibm.com/support/pages/node/1117869>

(3) Java on IBM i

<https://www.ibm.com/support/pages/java-ibm-i>

(4) IBM iの開発 (Java)

<https://www.imagazine.co.jp/imagazine-7853/>

(5) IBM iのJAVAは遅いのか？

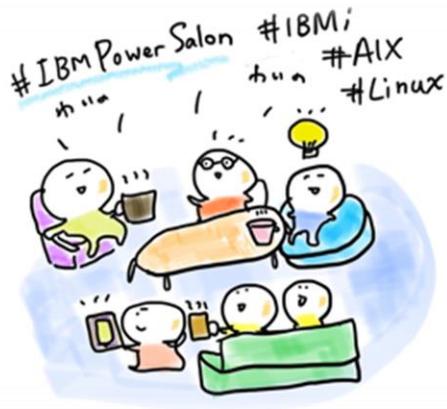
<https://qiita.com/gomAnomalocaris/items/5416fcbd34bddf979ba5>

<https://qiita.com/gomAnomalocaris/items/ccaeefeb0e91eee9438>

(6) WebSphere Application Server : Traditionalランタイムの現状について

<https://qiita.com/TTakakiyo/items/40b1c53def3058f4ba47>

IBM Power Salon のご案内



IBM Powerユーザーのための自由なオンラインサロンで、
お客様同士、IBMスペシャリストと繋がりませんか？

是非、お気軽にご参加ください。

内容：お客様によるDX事例、クラウド活用事例
IBM i/AIX/Linuxの技術情報、サポート情報
IBMスペシャリストによるQ&A 他

毎月第2水曜日 朝9時開店！

■ 開催済み ■

日時： 2023年2月8日 (水) 9:00-10:00

テーマ： .NET on Power 特別座談会

主催：日本アイ・ビー・エム（株）IBM Power 事業部

参加方法：オンライン開催

どなたでも参加可能、無料
事前申し込み不要

ご参加URL：ibm.biz/Powersalon-webex

お問い合わせ：NO1POWER@jp.ibm.com



IBM Power Salonの詳細はこちら
→<https://ibm.biz/power-salon>

IBM Power Salon バックナンバーのご案内

過去の講演はいつでもどこでも視聴可能、資料はダウンロードできます

再生回数
1,900回 突破!!

	開催日	カテゴリー	テーマ	動画・資料リンク
第1回	2021/11/10	IBM i World	IBM Power Virtual Server	・ 動画リプレイ ・ 資料
第2回	2021/12/8	IBM i World	プログラム言語	・ 動画リプレイ ・ 資料
第3回	2022/1/12	AIX	35歳になったAIXからのご挨拶	・ 動画リプレイ ・ 資料
第4回	2022/2/9	お客様講演	IBM iで「DX推進」のその後 <「2025年の崖」問題を解決しながら「DX推進」> ゲスト講師: 株式会社ニイタカ 川端 様	・ 動画リプレイ ・ 資料
第5回	2022/3/9	パートナー様講演	Legacy with DX - IBM iのデジタル変革実装の現場から ゲスト講師: 株式会社オムニサイエンス 下野 様	・ 動画リプレイ ・ 資料
第6回	2022/4/3	セキュリティー	緊急特番! 脅威のサイバー攻撃にはこう備えよ	・ 動画リプレイ ・ 資料
第7回	2022/5/11	お客様講演	社運をかけた大プロジェクト: IBM iと 奇跡のスパイス ゲスト講師: MCC食品株式会社 石川 様	・ 動画リプレイ ・ 資料
第8回	2022/6/8	IBM i World	IBM i World 2022: あなたの疑問全てお答えします	・ 動画リプレイ ・ 資料
第9回	2022/7/13	お客様講演	#サニバック流DXジャーニー、答えは「現場」が持っていた! ゲスト 講師: 日本サニバック株式会社 宇野 様, ベル・データ株式会社 田村 様	・ 動画リプレイ ・ 資料
第10回	2022/9/14	パートナー様講演	Fujitsu Enterprise PostgresとIBM Powerで創る明日への希望と自由の世界 ゲスト講師: 富士通株式会社 石杜様、椎木様	・ 動画リプレイ ・ 資料
第11回	2022/10/12	お客様講演	患者様の命のために - 保険科学西日本のDXを支えるIBM i ゲスト講師: 株式会社 保険科学西日本 太城 様	・ 動画リプレイ ・ 資料
第12回	2022/11/9	お客様講演	立命館とIBM i ~これまでの歩みとこれからの展望~ ゲスト講師: 立命館大学 師井 様	・ 動画リプレイ ・ 資料
第13回	2022/12/14	お客様講演	IBM iエンジニア不在でもDXはできる ゲスト講師: 株式会社 松沢書店 山口様、木下様	・ 動画リプレイ ・ 資料
第14回	2023/1/11	お客様講演	根っからのエンジニアが語る、IBM i内製化のリアル-ツナガルIBM iを自動倉庫とつなげてみた! ゲスト講師: 株式会社 電業 竹本様	・ 動画リプレイ ・ 資料

大反響！IBM Power Salon お客様ご講演回（2022年）

第4回 IBM Power Salon (2/9) IBM i

お題：
IBM iで「DX推進」のその後

<「2025年の崖」問題を解決しながら「DX推進」>



株式会社 ニイタカ 情報システム部 部長 川端氏ご登壇!

IBM i World 2021で大きな反響を呼んだ、株式会社 ニイタカの挑戦。

- ・ 中長期情報システム戦略は、実行段階へ、プロジェクトを通じて見えてきたことは？
- ・ RPGIV FFへのモダン化における、課題と副産物はこれだった！

[→動画リプレイ](#) | [→資料](#)

第7回 IBM Power Salon (2022/5/11) IBM i

お題：

50年振りの新工場建設、社運をかけた大プロジェクト!! エム・シーシー食品株式会社は、どんな奇跡のスパイスを使ったのか?

エム・シーシー食品株式会社
情報システムグループリーダー
石川 真法氏 ご登壇!!



[→動画リプレイ](#) | [→資料](#)

第9回 IBM Power Salon (2022/7/13) IBM i

サニパック流 DX ジャーニー、
答えは「現場」が持っていた!



日本サニパック株式会社
SCMグループ
デジタルトランスフォーメーション推進部 部長
宇野 康典氏



ベル・データ株式会社
東日本営業統括部 第2営業部
サブマネージャー
田村 浩和

[→動画リプレイ](#) | [→資料](#)

第11回 IBM Power Salon (2022/10/12) IBM i

患者様の命のために -
保健科学西日本のDXを支えるIBM i

株式会社 保健科学西日本
管理部 情報管理課 次長
太城 義雄氏



[→動画リプレイ](#) | [→資料](#)

第12回 IBM Power Salon (2022/11/9) IBM i

立命館とIBM i ~これまでの歩みとこれからの展望~

立命館大学のこれまでの取り組み内容とこれからの展望と、
IBM i/オープン系のハイブリッド技術者育成

立命館大学
情報システム部 情報システム課
師井 学氏



[→動画リプレイ](#) | [→資料](#)

第13回 IBM Power Salon (2022/12/14) IBM i

「IBM i エンジニア不在でもDXはできる」

株式会社 松沢書店
システム部 部長 システム部
山口 昌一氏 木下陽一郎氏



[→動画リプレイ](#) | [→資料](#)

大反響！IBM Power Salon お客様ご講演回（2023年）

第14回 IBM Power Salon (2023/1/11) **IBM i**

惜しみなく共有しちゃいます

根っからのエンジニアが語る、**IBM i**内製化のリアル

ツナガルIBM iを自動倉庫とつなげてみた！

株式会社 電業
システム管理者
竹本伸明氏



[→動画リプレイ](#) | [→資料](#)

IBM Community Japan

IBM i Club ご案内

■ IBM i Clubとは

- 自社システムとしてIBM iをご利用いただいている皆様同士で、各社の工夫や事例を紹介し合ったり、ディスカッションをしていただく場です。
- IBMの技術者も参加し、IBM iの最新情報のご提供や、ディスカッションに入らせていただくこともあります。
- 年5回(予定)、それぞれテーマを変えて開催します。

■ 2021年のテーマ例 (ご参加の皆様からいただいた課題をもとにテーマを選出しました)

- IBM i ユーザーハイブリッドクラウドへの道
- IBM i 人材育成の勘所
- 新技術の活用
- IBM i ユーザーのDX
- IBM i の優位性と今後

■ 開催期間

- 2022年2月24日から2022年12月末(予定)

■ 開催内容

- オンライン(Webex)セッションの開催: 2022年2月24日(木)を第1回とし年間5回(予定)
- 情報共有・ディスカッションの場: コミュニケーションツール(Slack)をご利用いただき、セッション以外の時も情報交換など可能です。

■ ご参加にあたってのお願い・ご注意点

- 守秘義務をお守りください。
- 営業活動を目的としたご参加はお断りいたします。
- IBM i Clubお申し込みには、事前にIBM Community Japanのメンバー登録が必要です。
- 開催期間の途中からのご参加も可能です。



■ 2022年開催予定

*日時・内容が変更になる可能性があります

	日時	実施内容	
1	2/24 (終了)	最新情報	「数字で見るIBM i小辞典」IBM 佐々木
		事例紹介	「利用部門からの要望」にどう対応しているか? トクラス(株)様
		ディスカッション	テーマ: これからのIT部門の役割
2	5月	最新情報	「IBM i 新リリース発表」
		事例紹介	(調整中)
		ディスカッション	テーマ: 人材確保・人材育成
3	7月	最新情報	
		事例紹介	
		ディスカッション	テーマ: 新技術の活用(仮)
4	9月	最新情報	
		事例紹介	
		ディスカッション	テーマ: DX(仮)
5	11月	最新情報	
		事例紹介	
		ディスカッション	

■ コース詳細・お申込み

<https://www.ibm.com/ibm/jp/ja/ibmcommunityjapan-product-community.html>

■ ご参考 昨年(2021年)開催内容

https://higherlogicdownload.s3.amazonaws.com/IMWUC/2fde9da6-6e7d-43b4-bae3-7f25168bbbd0/UploadedImages/japan/2022/2021_IBM_i_Club.pdf

IBM i 関連情報

IBM i ポータル・サイト

<https://ibm.biz/ibmijapan>

i Magazine (IBM i 専門誌。春夏秋冬の年4回発刊)

<https://www.imagazine.co.jp/IBMi/>

月イチIBM Power情報セミナー「IBM Power Salon」

<https://ibm.biz/power-salon>

IBM i 関連セミナー・イベント

<https://ibm.biz/powerevents-j>

IBM i Club (日本のIBM i ユーザー様のコミュニティー)

<https://ibm.biz/ibmiclubjapan>

IBM i 研修サービス (i-ラーニング社提供)

<https://www.i-learning.jp/service/it/iseries.html>

IBM Power Systems Virtual Server 情報

<https://ibm.biz/pvsjapan>

IBM i 情報サイト iWorld

<https://ibm.biz/iworldweb>

IBM i 7.5 技術資料

<https://www.ibm.com/docs/ja/i/7.5>

IBM Power ソフトウェアのダウンロードサイト (ESS)

<https://ibm.biz/powerdownload>

Fix Central (HW・SWのFix情報提供)

<https://www.ibm.com/support/fixcentral/>

IBM My Notifications (IBM IDの登録 [無償] が必要)

「IBM i」 「9009-41G」 などPTF情報の必要な製品を選択して登録できます。

<https://www.ibm.com/support/mynotifications>

IBM i 各バージョンのライフサイクル

<https://www.ibm.com/support/pages/release-life-cycle>

IBM i 以外のSWのライフサイクル (個別検索)

<https://www.ibm.com/support/pages/lifecycle/>



ワークショップ、セッション、および資料は、IBMによって準備され、IBM独自の見解を反映したものです。それらは情報提供の目的のみで提供されており、いかなる読者に対しても法律的またはその他の指導や助言を意図したのではなく、またそのような結果を生むものでもありません。本資料に含まれている情報については、完全性と正確性を期するよう努力しましたが、「現状のまま」提供され、明示または暗示にかかわらずいかなる保証も伴わないものとします。本資料またはその他の資料の使用によって、あるいはその他の関連によって、いかなる損害が生じた場合も、IBMは責任を負わないものとします。本資料に含まれている内容は、IBMまたはそのサプライヤーやライセンス交付者からいかなる保証または表明を引き出すことを意図したもので、IBMソフトウェアの使用を規定する適用ライセンス契約の条項を変更することを意図したものでなく、またそのような結果を生むものでもありません。

本資料でIBM製品、プログラム、またはサービスに言及していても、IBMが営業活動を行っているすべての国でそれらが使用可能であることを暗示するものではありません。本資料で言及している製品リリース日付や製品機能は、市場機会またはその他の要因に基づいてIBM独自の決定権をもっていつでも変更できるものとし、いかなる方法においても将来の製品または機能が使用可能になると確約することを意図したものではありません。本資料に含まれている内容は、読者が開始する活動によって特定の販売、売上高の向上、またはその他の結果が生じると述べる、または暗示することを意図したもので、またそのような結果を生むものでもありません。パフォーマンスは、管理された環境において標準的なIBMベンチマークを使用した測定と予測に基づいています。ユーザーが経験する実際のスループットやパフォーマンスは、ユーザーのジョブ・ストリームにおけるマルチプログラミングの量、入出力構成、ストレージ構成、および処理されるワークロードなどの考慮事項を含む、数多くの要因に応じて変化します。したがって、個々のユーザーがここで述べられているものと同様の結果を得られると確約するものではありません。

記述されているすべてのお客様事例は、それらのお客様がどのようにIBM製品を使用したか、またそれらのお客様が達成した結果の実例として示されたものです。実際の環境コストおよびパフォーマンス特性は、お客様ごとに異なる場合があります。

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、Db2、Rational、Power、POWER8、POWER9、AIXは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corporationの商標です。

他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。

現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

インテル、Intel、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Centrino、Intel Centrino ロゴ、Celeron、Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、およびPentium は Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linuxは、Linus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標です。

ITILはAXELOS Limitedの登録商標です。

UNIXはThe Open Groupの米国およびその他の国における登録商標です。

JavaおよびすべてのJava関連の商標およびロゴは Oracleやその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。